

05: 社会に開かれた教育課程の実現に向けた教育活動

＊現在各機関と検討中

Field 1「京都」で学ぶ

京都市立芸術大学や様々な外部機関との連携を通じた学びの創出

隣接する京都芸大との連携を図り、日常的に高校生が大学生の制作風景に触れることで主体的な交流・連携が生まれる仕掛けを構築するとともに、新たな高大連携の取組を推進し、生徒の感性を刺激し、キャリアデザインにつなげます。

(取組例)

- 高大共用施設などを活用した高校生・大学生との交流 (作品展の相互鑑賞・大学生のギャラリートークへの参加・アートキャンプなどの共同プロジェクトの実施)
- 大学教員による出張授業の実施



ギャラリー @KCUA(京都芸大施設)



交流広場

京都の玄関口という立地を最大限生かし、地域や大学、企業、伝統産業など、美術を通して、実社会と繋がる「わくわく」する学びに取り組めます。

(取組例)

- 企業との連携による講演会や企業訪問、課題解決型授業等の実施
- 京都の伝統産業に受け継がれるスピリッツ (精神性) とストーリー (物語性) を探究する学び
- 区役所や地域が主催するイベントやお祭りへの参加 (下京まちなかアートギャラリーなど)
- 高校施設を活用した生徒作品展やアートイベントの開催
- 小・中学校との連携事業への京都芸大との共同参加



企業と連携した課題解決型学習



伝統産業工房でのインターンシップ体験

小・中学校をはじめとした年少世代との交流を通して、固定概念に囚われない素直な感覚から学ぶ取組を行うとともに、「描くこと」「作ること」が好きな京都の子どもたちの憧れの「学び場」としての機能を高めます。

また、本市の小・中学校の美術科教員への研修を行うなど、本市美術教育のセンター機能としての役割を担っていきます。

(取組例)

- 展覧会への年少世代との共同作品展示
- 小・中学校への高校教員の派遣指導
- 本市美術教育のセンター機能としての役割を担い、本市立学校教員対象の研修を実施



下京渉成小学校での合同作品展示発表会

Field 2 「世界」で学ぶ

世界の多様性にふれる機会の創出

海外への派遣研修（現在は選抜制）や外国人留学生との交流等を通して、海外の文化、アート施設や作品に触れ、異なる国で美術を学ぶ同世代の価値観を知ること、生徒の意欲喚起はもとより、「美」への思いや新たな自分と向き合う機会を創出します。

（取組例）

- 海外の美術系高校等への派遣研修やオンラインを活用した交流・共同学習の実施
- 京都芸大をはじめ、外国人留学生との交流



ヨーロッパ研修 フィレンツェの芸術高校訪問



京都芸大留学生と本校学生の交流

Field 3 「デジタル」で学ぶ

ICT を活用した創造的・協働的・個別最適な学び

1人1台所有するiPadを活用し、創造的な学びを創出するとともに、協働的な学びと個別最適な学びを推進します。

また、新校舎に新たに整備するマルチメディア実習室や3Dファブリケーション室などの最新のICT環境を活かし、デジタル技術を活用した現代アートなど、多様な美術領域に対応した教育の充実を図ります。

（取組例）

- 1人1台所有するiPadや各HR教室に整備する電子黒板など、充実したICT環境を活かした教育活動の推進
- デジタル技術を活用した作品制作(3D(AR・VR)、プロジェクションマッピングなど)への挑戦
- オンラインの利点を活かした社会の「知」へのアクセスや外部機関との共同学習の実施



iPadで創造性を高める



iMacで表現を豊かに



メタバース体験を通して感性を磨く

06: 中核となる教育活動

美工では、歴史と伝統ある美術教育を礎に、美術を核とした教科・科目・専攻の横断的な学びや、課題解決学習、生涯にわたり、自ら学び続ける基盤をつくるキャリア教育など、only one の美術専門高校としての学びを実践します。

BIKO steAm と CAREER PRODUCE

－「美」を通した横断的な学び－

美工の生徒の強みは、「作品を生み出す力」です。作品とは、これまでに世の中になかった「新しい何か」がこの世界に生み出されることであり、人々はその作品を通して対話を育み、生活を豊かなものにしてきました。美術作品が人々の生活とともにあることは社会にとってかけがえのない力となります。生徒は、美術表現において、大きな力を発揮できる感性を持っています。その力を他の分野にも関連づけ、学びを広げ、深めることにより、生徒の可能性をさらに高める教育活動が「BIKO steAm」です。「美」を通した横断的な学びにより、多様な学びへの意欲・関心を高め、大好きな美術の力をさらに伸ばすとともに、「ソウゾウ（想像・創造）」に向かう力を育成します。



BIKO steAm の取組 美術 × 理科
浴衣制作のための植物観察をテーマに理科と染織専攻が協働で授業を行い、双眼実体顕微鏡を用いたスケッチを制作

－生涯にわたり、自ら探究し、学び続けるための基盤作り－

変化の激しい現代社会の中で、生徒たちが希望をもって、自分の未来を切り拓いて生きていくために、変化を恐れず、変化に対応していく力と態度を育てることが不可欠となります。

美工では、そのような社会で活躍する土台を築くために、将来の自分の生き方やキャリアについて自らデザインする取組を「CAREER PRODUCE」と位置づけています。入学時に美工での学びを見通すスタートアップ研修の実施や、インターンシップ、探究活動を通して、生徒が主体的に社会と関わる意欲を高め、必要なスキルや知識を学び、経験を積むプログラムをすすめていきます。



撮影スタジオでのインターンシップ

スチーム BIKOsteAm BIKOの学びをARTでつなぐ

美術工芸高校の特性を生かし
「美」を通して様々な学びに横断的に取り組みます。
京都の強みを生かし 学校内外とのつながりを通し
創造に向かう力 **Creatorship** を育成します。

ひろげる つなげる ふかめる



BIKOsteAm とは

一般的な STEAM 教育とは、STEM (Science, Technology, Engineering, Mathematics) に加え、芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含むものとして Arts を定義し、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習とされています。

BIKO steAm は、美術専門高校の特性を生かし、美術教科・普通教科・総合的な探究の時間・特別活動・課外活動それぞれの枠組を「美」を通して横断的に学習するプログラムです。社会に開かれた教育課程の下、京都の強みを生かし、学校内外とのつながりを通して、「ひろげる、つなげる、ふかめる」学びを実践し、表現活動の基盤となる「感じる心」「考える力」を深めるとともに、他者との対話を通して、多様で創造的な「表現する力」を養い、「創造に向かう力 (Creatorship)」を育むことを目指します。

美工では全ての教科・科目・専攻において、横断的な学びを取り入れます。

＊現在実施している横断的な学習

■美術 × 英語 × 情報（1 年次）

「ユニバーサルデザインをテーマに、英語表現や文化理解を深める」

【学習内容】

英語の学びにおいて、社会的・文化的背景を知ることによって理解を深めるとともに、自分自身との関わりが生まれることで、より表現が豊かになります。

そこで、デザイン専攻教員が英語の授業に出向き、教科書のトピックの一つであるユニバーサルデザインについて専門的な知識を生徒に伝えることで学び、その意味や人々との関わりについて知識・理解を深めました。さらに、そこから発想をふくらませ「ピクトグラム」の制作を行い、完成作品を英語でプレゼンテーションしました。

■美術 × 総合的な探究の時間（1 年次）

「展覧会をつくる」

【学習内容】

生徒自身が主体的に課題を見出し、学んだことを整理しながら課題解決のための探究を進めていくため、外部機関との連携を通して、実社会との関わりを意識した深い学びの機会を作っています。

授業の導入では、学芸員の方による講義を受け、美術館の役割、所蔵作品の意義、展示・保管等の業務など、専門的な知識や経験について学び理解を深めました。その後、グループごとに独自のテーマを設定して展覧会を企画し、作品の選定、チラシやポスターデザイン、模型製作などを協働で行い、プレゼンテーションの中で学芸員の方から講評いただきました。

Barrier-free design

Universal design



BIKO steAm の取組 美術 × 英語



BIKO steAm の取組 美術 × 総合的な探究の時間

CAREER PRODUCE とは

日常的教育活動を通して、学ぶ面白さや学ぶことの意味を生徒が体得していくことを大切に、生涯にわたって、より良い未来にむけて自己の目標や社会への課題意識を持ち、それぞれの個性や持ち味を発揮させながら、学び続ける意欲や努力し続ける姿勢の基盤をつくります。

美工では、これまでより、短期・中期的な目標である卒業後の進路希望の実現に向けて、アートと社会について理解を深める進路講演会や希望制による企業や工房への就業体験の設定、また進学希望の大学に合わせた実技演習など、きめ細やかな取組を実施し卒業後の進路などに成果が表れています。

こうした取組に加え、生徒が生きていく今後の予測困難な社会において必要とされる、生涯にわたって生徒自らが将来を切り拓く力の育成を目指し、キャリア教育の体系化や再構築を進めていきます。

（取組例）

- 3 学年合同の活動を増やし、成長のロールモデルを提示します。

他学年との学習や制作・活動の機会を積極的に設けることで、互いに刺激を受けながら、表現力等を高めるとともに、3 年間の学びや自己の成長のイメージを形成し、必要な力の育成に向けた主体性の発揮を促します。

- 興味関心や将来展望を踏まえた生徒自身によるインターンシップを企画します。

これまで実施してきたインターンシップの取組のノウハウを生かしつつ、生徒自身の興味関心を踏まえ、自らが研修内容を企画・提案するなど、より主体的な学びの実現に向けて改善を図ります。

- その他、生徒自身が放課後などの使い方を自分で考えて活動したり、キャリアパスポートを活用する機会を充実させ自らの取組を振り返るなど、キャリア教育の全体像を生徒・教職員が共有し、すべての教育活動でキャリア発達を意識した取組を進めます。



進路希望の実現に向けた実技演習



インターンシップ体験の様子

07: グランドビジョン懇談会の実施概要

設置目的

移転先が京都の玄関口に位置し京都市立芸術大学と同敷地であるという他に類のない恵まれた環境を最大限活かし、「文化芸術都市・京都」の更なる発展の一翼を担う新たな美術専門高校の創設を目指している。新校に新たな魅力や価値を創造し、Only One の美術専門高校としてのブランディングの再構築を図るため、有識者に参画いただき、新校の教育内容等を検討するために設置する。

構成員

令和4年4月時点

○委員（五十音順）

- ・赤松 玉女 氏 京都市立芸術大学 理事長・学長
- ・臼井 重雄 氏 パナソニック株式会社執行役員・デザイン本部長
- ・ウスビ サコ氏 京都精華大学 前学長 全学研究機構長
- ・出口 治明 氏 立命館アジア太平洋大学 学長

○本市関係者

- ・東良 雅人 氏 京都市総合教育センター 副所長
前文部科学省初等中等教育局 視学官
- ・山田 敦 氏 京都市立下京中学校 校長
- ・波多野 愛 氏 京都市立下京渉成小学校 校長

○オブザーバ

- ・文化庁地域文化創生本部事務局



開催実績・概要

第1回：令和3年2月5日（金）

○主な検討議題

- ・これからの社会の発展に果たす美術の機能・役割と可能性
- ・今後の芸術の担い手のあり様とその育成を目指す新たな美術専門高校の在り方
- ・新美工ならではの環境を活かした高大・地域・産学連携の在り方。
京都芸大との連携、移転先の立地を生かした地域・産業との連携、Only One の美術専門高校としての取組、多様なあふれるグローバルな美術教育、レジリエントな学校づくり

○主な御意見の概要

- ・表現を豊かにするインプット（幅広い教養や日常的な観察、他の世界に出会う等）を重視した学びの充実
- ・美術専門高校としての学びの実践（教科の本質に迫った学び・ストーリーテリングの育成等）
- ・京都の資産（伝統産業の職人等）から学ぶ取組の充実
- ・美術を学んだ者のキャリアを学ぶ機会の創出
- ・年少の世代との接続（幼稚園、小・中学校との連携を通して、自身の感覚を崩す仕掛けの構築等）

第2回：令和3年11月8日（月）

○主な検討議題

- ・美工の全体構想（学校像、生徒像、資質能力、スクールメッセージ、スクールポリシー等）
- ・社会に開かれた教育課程の実現に向けた具体的な取組の検討の進捗状況
- ・BIKO の学びを ART でつなぐ「BIKO steAm」の検討の進捗状況

○主な御意見の概要

- ・生徒に積極的に挑戦させたり、失敗をさせて成長に繋がったりする機会の創出
- ・京都芸大が卒業生を招き実施するキャリア学習への新美工の参画
- ・新校舎内に高校生の作品鑑賞ができるスペースの設置
- ・高校生の作品を世に問う機会の創出
- ・思想や哲学等を通して、人間だからこそできる力の育成
- ・平均的な人材ではなく、強みが秀でている「尖った人材」の育成
- ・強弱つけた教育活動の実践・推進

08: 学校概要



校舎内の地域のシンボル 銀杏の木

■校名

京都市立美術工芸高等学校 ※令和5年4月の移転に伴い変更します。

■移転予定地

〒600-8252 京都府京都市下京区川端町15番地

■課程／学科／専攻【継続】

全日制／美術工芸科／日本画、洋画、彫刻、漆芸、陶芸、染織、デザイン、ファッションアート

※1年次に8専攻の基礎を学び、1年次末に1専攻を決定します。

2・3年次の2年間は、1専攻に所属し、より専門的な実習を行います。

※3年次には、国公立大学を中心とする大学進学を目指す「アートパイオニアコース」と多様な美術の科目を履修できる「アートフロンティアコース」のいずれかのコースを選択。

■定員【継続】

1学年90名（3学級）

■通学区域【継続】

京都府内全域。なお、志願者が在住する都道府県の公立高校に希望する専攻が設置されていない場合は、特別事情具申手続によって受検することができます。

■校歌

現在本校には、校歌はありませんが、移転を機に制定予定。

■制服【継続】

現在本校には、制服はありません。移転後においても、同様の取扱とします。

移転ロゴマークの作成



銅駝美工の移転を広く中学生・保護者・市民の皆様にご案内することを目的に、ロゴマークを作成しました。ロゴマークには、校地・校名が変わり、新たなスタートを歩んでいくことに「わくわく」する想いを表しています。皆様にも、是非「わくわく」しながら、移転を迎えていただければ幸いです。



美術工芸高校開設準備室